



赤嶺 奈津江 議員

# 子どもの引きこもり等 支援の現状は

答 必要な支援方法を話し合っている

**問** 引きこもり等に対する施策が見えない。現在の状況はどうなっているか。

**教育部長** 学校・教育委員会・児童相談所・福祉事務所・社協等の担当者で構成する登校支援委員会がある。また教育相談員、各小中学校の心の教室相談員、スクールソーシャルワーカー、元氣ROOM支援員で構成する教育相談員連絡会がある。情報の共有並びに連携をして、おのおのに必要な支援方法や対応策等を行っている。

**問** 引きこもりは増加傾向にあると聞いているが把握しているか。

**教育部長** 引きこもり児童生徒の人数は把握していない。学校へ出席していない児童生徒は、平成28年度0人、平成29年度3人となっている。不登校の人数は、平成30年度2月現在で小学校28人、中学校45人である。前年度と比較して小学校で15人、中学校で14人の増である。

**問** 今後どう対応していくのか。児童館等の活用も課題と思うが検討しているか。

**副町長** 児童の引きこもりに関しては、何らかの理由で学校へ行けていないことを考えると、まずは家から一歩外に出る手段として、児童館等の活用も有効と考える。

**問** 児童館活用は、子供たちのためにも早期の実現を望む。年度途中でもできる可能性があるあれば、早期にやるべきだと思うがどうか。

**民生部長** 児童館の活用は有効な手段である。早期に体制を整え、できるだけ早い時期に児童館を活用していく。学校からの相談313件数中、不登校・登校渋りの相談が182件である。教育委員会と連携し、対応をしっかりとっていく。

**教育部長** 不登校の生徒が1人でも学校に復帰できるよう連携をとっていく。

子どもの貧困等対策事業を問う

**問** 児童館や各自治会、公民館やコミュニティセンター等を活用した子どもの貧困等対策事業の検討はどうなっているか。

**副町長** 児童館については、県内での事例調査を終え、活用に向けて検討を進める。公民館やコミュニティセンター等の活用については、これまでどおり町社協の子ども等貧困対策支援事業での活用を継続していく。



▲町内には各小学校校区に児童館があります。

こんな質問もしました

- ふるさと納税について問う
- 集落支援員制度の活用を
- 町立小中学校の空調設備について